

# 彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, February, 2011

課長：佐藤 裕久 *H. Sato*

幹事：下元 繁男 *S. Shimomoto*

## ○ 2月の状況 (佐藤)

☆ C/2011 C1 (McNaught)

2月12日0:05、東京都大田区の佐藤英貴氏から、彗星課メーリングリスト(以下 oaa-comet ML という。)に「本日2つの NEOCP 天体を観測しました。SC55D11 は彗星です。集光の弱い頭部と、PA 280 度の方向に扇状に伸びた尾が写ります。海外でも彗星として観測されていますが、集光が弱いためか残差が比較的大きく、軌道もなかなか決まらないですね。12A0002 は恒星状に写っています。しかしこれほど明るい天体が衝付近で見つかるのは珍しいです。もしかすると昨年の P/2010 H2 のような転帰を迎えるかもしれませんので、今後の形状には要注意です」と、スペイン Nerpio の 0.43-m f/6.8 反射のリモート操作による NEOCP 天体 SC55D11 と 12A0002 の観測報告があった。

同日1:12、筆者から「SC55D11 は彗星状とのこと。位置推算表も計算しました。また、12A0002 は 2011 CR<sub>42</sub> となったようですね」と、SC55D11 の放物線軌道と 2011 CR<sub>42</sub> の6年余りの楕円軌道を報告した。

13日8:32に発行された IAUC 9197によると、2月10.72日 UT、Robert H. McNaught は、Siding Spring の 0.5-m Uppsala Schmidt 望遠鏡で得た画像から強い集光で 12" のコマと西に 0'.3 の拡散した尾のある 17.0 等の彗星を発見したとのことであった。佐藤英貴氏のほか、門田健一氏(埼玉県上尾市、0.25-m f/5 反射)ら CCD

位置観測者たちによって彗星状と観測された。

☆ P/2011 C2 (Gibbs)

2月14日0:38、佐藤英貴氏から oaa-comet ML に「…別の NEOCP 天体 SCADE95 は土星属彗星の軌道を持つようですが、シーイングが悪い中での観測で、彗星かどうかはわかりません」という情報と位置観測報告があった。

16日9:57に発行された IAUC 9199によると、2月12.29日 UT、Alex R. Gibbs (LPL、月惑星研究所)は、Mt. Lemmon の 1.5-m 反射望遠鏡で得た CCD 画像から 19.9 等の彗星を発見した。小さくまとまったコマと p. a. 295° に細長く伸びた 8" の尾を見せていた。小惑星センターの 'NEOCP' Web ページで公表した後に、K. Sarneczky (Konkoly 天文台, Piszkesteto, ハンガリー、0.60-m Schmidt 望遠鏡, 6" のコマと p. a. 285° に 10" の尾があり)ら CCD 位置観測者たちによって彗星状と観測された。

その後、国内では2月26日 UT、芸西チームによって観測された。70-cm 反射による CCD 核光度は 19.6-19.8 等であった。

☆ 2011 CA<sub>66</sub>

13日19:05、佐藤英貴氏から「先日報告した SC55D11 は C/2011 C1 (McNaught) となりました。豪州 Moorook の Tzec Maun で観測したロシアのグループは 14 等台とだいぶ明るい測定を出しています。ところで、彗星発見は続くようで、SC55EDD(これもまた McNaught 氏による発見と思われる)という NEOCP 天体も彗星のようで

す。こちらはやや南に低く、月明かりが邪魔を  
しており淡い姿ですが、17 等と明るく、コマ  
もよく見えています」との情報と位置観測報告  
があった。

14 日 0:18、筆者より「SC55EDD は短周期彗  
星のようですね」とのコメントと放物線軌道、  
周期 7 年余りの楕円軌道を報告した。

同日 0:38、佐藤英貴氏から「軌道計算、あ  
りがとうございました。SC55EDD は、今後少し  
明るくなるようですね。P/2011 C2 (McNaught)  
となるのでしょうか」とのコメントがあった。

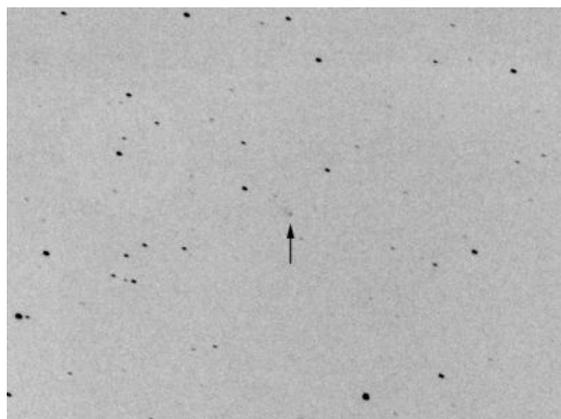
18 日 19:12、佐藤英貴氏から「…2011 CA<sub>66</sub>  
(SC55EDD) は北半球の少なくとも 3 個所で彗星  
状として観測されたのですが、小惑星として公  
表されました。Siding Spring の Rob McNaught  
氏は、二夜目の観測の際に彗星活動がないか詳  
しく調べたが、小惑星状であったと述べていま  
す。私自身の 2/15 の観測でもコマは写りませ  
んでした。低空の、悪いシーイングによって生

じた「false positive」だったのでしょ」と  
のコメントがあった。この天体については彗星  
にはならなかった。

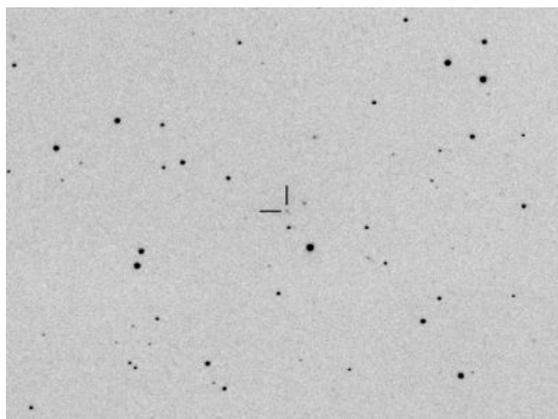
## ○ 2 月に発見されたほかの彗星

☆ C/2011 C3 (Gibbs) 2 月 12.50 日 UT、A. R.  
Gibbs は、Mt. Lemmon の 1.5-m 反射望遠鏡  
で得た CCD 画像から 19.8 等の彗星を発見し  
た。小さくまとまったコマと p. a. 290° に  
微かに伸びた 6" の尾を見せていた (IAUC  
9199, 2011 Feb. 15)。

その他明るい彗星は、C/2010 B1 (Cardinal)  
(写真 a)、29P/Schwassmann-Wachmann (写真 b)、  
103P/Hartley、C/2005 L3 (McNaught)、等であ  
った。



(写真 a) C/2010 B1 (Cardinal) 2011, 02, 22  
20h00.0m-20.5m (JST) exp. 60s×14 TOA130+CCD  
三重県伊賀市上野 田中利彦氏



(写真 b) 29P/Schwassmann-Wachmann 2011, 02, 26  
23h30.0m-40.0m (JST) exp. 60s×7 TOA130+CCD  
三重県伊賀市上野 田中利彦氏